

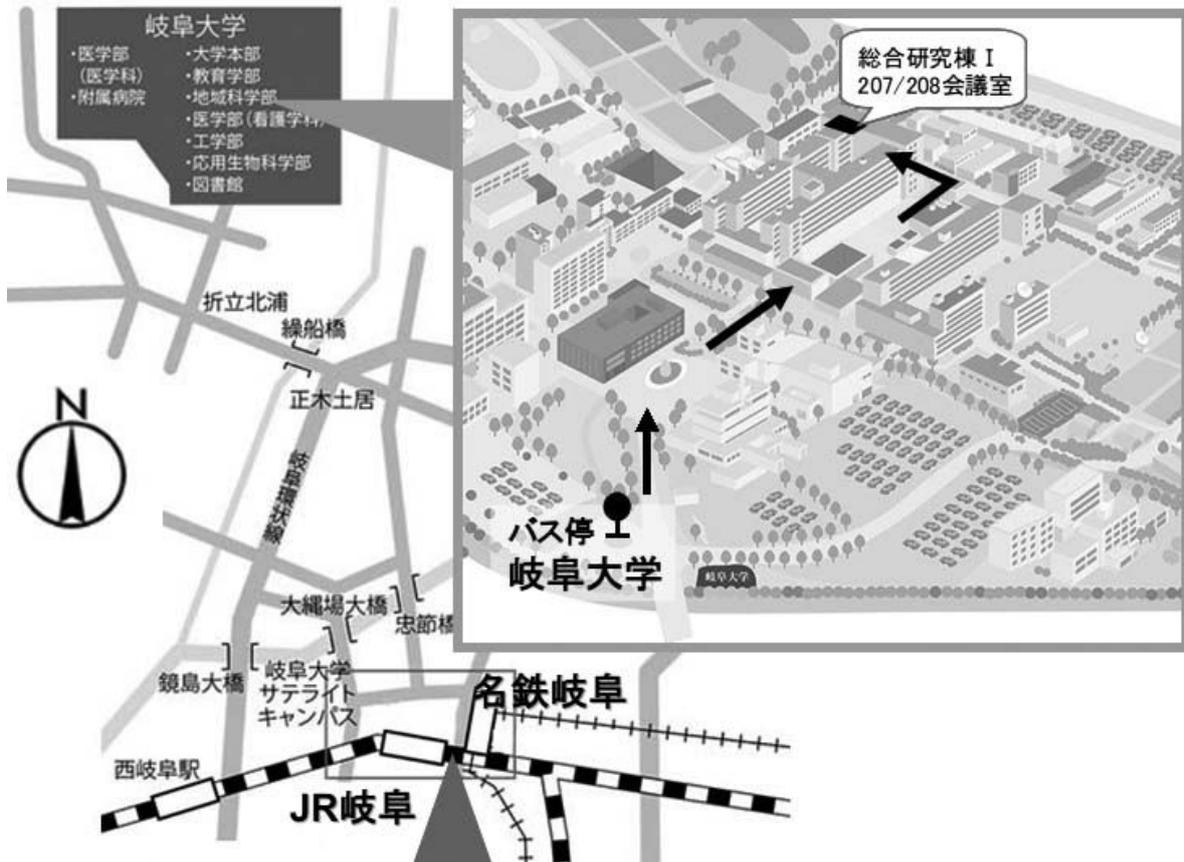
平成 29 年度日本気象学会中部支部研究会

1. 日時： 2017 年 11 月 27 日(月曜日) 12:50～18:20 (終了後、懇親会)
 11 月 28 日(火曜日) 09:30～13:30

2. 場所： 岐阜大学 流域圏科学研究センター
 総合研究棟 I 207/208 会議室 (岐阜市柳戸1-1)

3. 交通案内：

岐阜大学柳戸キャンパスへは、JR 岐阜駅または名鉄岐阜駅から岐阜バス「岐阜大学・病院線 (系統 C70, C71, C72)」あるいは「岐南町線(系統 N45)」に乗車、「岐阜大学」下車。
 詳細は <https://www.gifu-u.ac.jp/access/> をご覧ください。



JR岐阜駅 [9番のりば]	岐大ライナー(直行便) 清流ライナー 岐阜大学・病院線 C70系統(時刻表)	-----> 約30分～35分/320 円	岐阜大学 バス停車
	名鉄岐阜駅 [4番/5番/Eのりば]	岐南町線 N45系統(時刻表)	

◇ 支部研究会のプログラム

11月27日(月)

12:50~13:00

開会の辞 長谷川洋平 (中部支部長/名古屋地方気象台)

(1) 13:00~13:17

吉田信夫 (多治見気象の会)
「高温事例からみた多治見の暑さ」

(2) 13:17~13:34

*大和広明¹、栗林正俊¹、浜田崇¹、田中博春²、榊原保志³
(1:長野県環境保全研究所、2:法政大、3:信州大)
「長野市における百葉箱でのヒートアイランド現象の実態把握とその観測精度」

(3) 13:34~13:51

鵜沼昂 (津地方気象台)
「三重県尾鷲市付近の上層風と降雨の地域特性」

(4) 13:51~14:08

*松岡優輝、立花義裕 (三重大)
「三重県の降雪の局地性を強化させる条件」

(5) 14:08~14:25

*更科孟、安永数明 (富山大)
「2016年-2017年冬季の富山における降水粒子の特性について」

14:25~14:35 休憩

(6) 14:35~14:52

*堤勇人、広瀬正史 (名城大)
「衛星搭載降水レーダによる降雪推定値の空間分布」

(7) 14:52~15:09

*坂泰志¹、立花義裕¹、山崎孝治^{1,2}、西井和晃¹、小寺邦彦³、小木雅世⁴
(1:三重大、2:北大、3:名大、4:マニトバ大)
「2016年1月の日本の大寒波に伴う北極振動の急激な極性反転と北極海氷の減少」

(8) 15:09~15:26

林悠平 (名古屋地方気象台)
「地形が竜巻の発生に及ぼす影響 I-b ~近年に日本で発生した竜巻とその環境場~」

(9) 15:26~15:43

伊藤忠 (日本気象予報士会東海支部)
「2017年4月29日に近畿・東海で発生した突風について」

(10) 15:43~16:00

伊藤忠 (日本気象予報士会東海支部)
「山岳を越える台風の2種類の進行形態-2014年台風19号を例に-」

(11) 16:00~16:17

高村奈央 (名古屋地方気象台)
「2017年台風第3号に伴う愛知県における大雨について」

16:17~16:30 休憩

- (12) 16:30～16:47
*松井友梨、吉野純、古田教彦、豊田将也、小林智尚（岐阜大）
「渦位部分的逆変換法に基づく2016年台風09号,10号,11号の進路解析」
- (13) 16:47～17:04
*下村響胡¹、中瀬絢葉¹、上西優実花¹、立花義裕²、金井惇平²（1:松阪高、2:三重大）
「海水温の変化と台風の発達」
- (14) 17:04～17:21
*豊田将也、吉野純、小林智尚（岐阜大）
「猛烈な台風と高潮に関する温暖化影響評価」
- (15) 17:21～17:38
*藤本竜也、安永数明（富山大）
「2016年台風14号の急発達時における上層風の変化の特徴」
- (16) 17:38～17:55
*金井惇平¹、立花義裕¹、小寺邦彦^{1,2}、山崎孝治^{1,3}（1:三重大、2:名大、3:北大）
「台風の衰弱過程～圏界面変動の影響～」
- (17) 17:55～18:12
吉川契子（清水西高）
「高等学校「地学基礎」授業における、簡易な気象観測の重要性」

19:00～ 懇親会 @昭和食堂 岐阜島店(送迎)

11月28日(火)

- (18) 09:30～09:47
*町田卓也、轡田邦夫（東海大）
「地上観測点を用いた駿河湾付近に発生する収束線の解析」
- (19) 09:47～10:04
*川崎睦実、平野雄也、植原量行、轡田邦夫（東海大）
「駿河湾周辺の降水量と河川流量」
- (20) 10:04～10:21
*高橋優¹、轡田邦夫¹、富田裕之²、加古真一郎³、日原勉⁴、久保田雅久¹
（1:東海大、2:名大、3:鹿児島大、4:JAMSTEC）
「高解像度全球海上風・海面応力格子データセットの精度検証」
- (21) 10:21～10:38
*八木雅文¹、轡田邦夫¹、永延幹男²（1:東海大、2:国際水産資源研究所）
「南大洋上における海上風応力と海面水温の変動」
- (22) 10:38～10:55
*安藤雄太¹、立花義裕¹、根田昌典²、前川陽一¹、中村亨¹、奥村順哉¹（1:三重大、2:京大）
「渦相関観測システムがとらえた乱流フラックス～夏季の海面水温の表面加熱との関係～」
- (23) 10:55～11:12
*丹羽幸佑、保浦知也、田川正人（名工大）
「微気象観測のための超小型風向風速センサの開発」
- (24) 11:12～11:29
*関陽平¹、立花義裕¹、山崎孝治^{1,2}（1:三重大、2:北大）
「気温急変の気候学的見解」

11:29～11:40 休憩

- (25) 11:40～11:57
*永田桃子¹、立花義裕¹、山崎孝治^{1,2} (1:三重大、2:北大)
「東シベリアの森林の消失が北太平洋上の大気循環に及ぼす影響」
- (26) 11:57～12:14
*杉原直樹、立花義裕 (三重大)
「両半球をまたぐソマリジェットの日本への遠隔影響」
- (27) 12:14～12:31
*内木詩歩、安永数明 (富山大)
「ひまわり 8 号のデータを用いた雲トラッキングアルゴリズム開発」
- (28) 12:31～12:48
*白井和也、安永数明 (富山大)
「東アジアの梅雨期における雲のシステム数の長期変動」
- (29) 12:48～13:05
堀渕雄
「長野市北部の低山地帯を越えて長野盆地に流入する下層冷気流と雲について」
- (30) 13:05～13:22
*小原一真¹、牧輝弥²、能田淳³、E.Davaanyam⁴、源祐輝¹、河合慶¹、甲斐憲次¹
(1:名大、2:金沢大、3:酪農学園大、4:モンゴル気象水文環境情報研究所)
「シーロメータを用いたゴビ砂漠におけるダスト量の推定 -ダスト係留気球との同時観測-」
- 13:22～13:30
講評 玉川一郎 (岐阜大学 流域圏科学研究センター)

複数の著者による発表では、著者名に*印が付けられた方が発表される予定です。今回の支部研究会では、講演 1 件あたりの割当て時間は 17 分を予定しております。各講演者の方は講演時間 12 分、質疑時間 5 分を目安とした講演をお願いいたします。